タンポポだより

vol.37
2021 夏号

友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌

すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成5年版)より　詩／坂村真民「光る海」　画／海野阿育

坂村真民記念館
Sakamura Shinmin Museum

坂村家のアルバム

vol.7

宝玉のような玉名の家の思い出

前号と同じ時期のお話しです。この時代が持つ意義を皆様にお伝え出来ればと願います。大正4年、昂（たかし）（真民の戸籍名）は小学校に入学し、家族は初めて大きな一軒家に住むことになりましたが、そこでの生活は3年生の秋までの僅か2年半で終わりを告げます。

元玉名（現在の玉名市）の家

紹介する詩は「さるすべりの花」「孤独」の二篇、また、その家の古い写真が残っており、さるすべりの花と共に載せました。この地は、熊本県玉名郡玉名村元玉名という「玉」の字が三つもついていて、父・真民は、そこにも因縁を感じ魅かれるところが有ったようです。

まず、真民詩の良き理解者である 大東出版社社主・岩野喜久代様が書かれた一文を読んで下さい。二つの詩とその家の在りようが、眼前に像を結ぶようにわかります。

『大きな家は菊池川（玉名川）に面して、帆かけ舟が上下するのが座敷から見られたし、数多の花木や果樹にまじって、一際高く樹齢六百年を越すいちいの樫の大木が茂っていた。夜はこの木に梟が啼き、朝は小鳥らが群がり騒いだ。この颯爽たる大樹が、幼少のしんみんさんに与えた影響は大きかった。仲むつまじい両親は、百日紅の咲く下で、お互いに防具をつけ、父は竹刀をとり母は長刀をふるって武術仕合をする絵のような光景もあった。全ては想い出の世界の中のメルヘンで、優しく温かい』

この絵本にあるような日々は、父親の突然の死で終わりました。「この玉名の家での宝玉のような忘れ難いものを持っている故に、暗い人生も暗くならなくて突破することができたのだと思う」と、後年、真民は書き残しています。

幸せな中にあっても夜中に一人目を覚まして梟が鳴くのを聴き、いちいの樫の実の落ちる音に耳を傾けていた少年。孤独の始まりは、文学の道へとつながりました。「月夜の夜、雨の夜、水の清い晩、水の濁った晩、星のある夜、星のない夜、父と子は、川を上から下、下から上と、魚を追って歩いていた」とあるほど釣りが好きな父親でしたが、「それは、わたしに詩心を植え付けたであろう」とも書いています。母親はお魚が大好きで、その喜ぶ姿に父親の釣りにも熱が入ったのではないでしょうか。

武家の出の母親は本物と稽古用の薙刀数本を嫁入り道具として持ってきた人で、熊本師範学校を出た父親には剣道の腕がありました。子供達は縁側に座って両親の試合を眺めていたとか。百日紅の花がはらはらと二人

に降りかかった…真民が大好きな、切ないほど美しい話です。この試合で先に「まいった」と言った父・子司（たねじ）さん、最後まで本気であれば勝ったのではと思うところですが。

こうして見ると、坂村家（子司・夕子（たね）夫婦）は、当時の家庭にはめずらしく自由で平等、そして温かい思いやりの雰囲気に満ちていたようです。その空気を吸って育った昂少年に引き継がれたものは、次の坂村家（真民・久代夫婦）へと、ひいては真民詩の中にも通奏低音のように流れています。私達三人の娘は、なんと幸せな空気のなかで大きくなったことでしょうか。

小学校3年の夏から秋にかけて起きた出来事、そしてその後の生活の急展開は次号に続きます。

文／西澤真美子

赤色のさるすべり（百日紅）の花

さるすべりの花

さるすべりの花を見ると
幸せであったころを思い出す
父も母も元気で
父は竹刀（しない）をとり
母は長刀（なぎなた）をもち
気合いの声も勇ましく
この木の下で
よく試合をした
ほろほろと散る赤い花
ながくながく咲く百日紅（ひゃくじつこう）
しかしわたしたちの幸せは
短かかった
花の終わらないうちに
父はこの世を去った

孤独

〈一・二節略〉

父が死んだ玉名の家には
村一番のいちい樫の大木があった
ふくろうがいつも住み
四季おりおりの渡り鳥が
羽根を休めていった
わたしはその木の下で
ロビンソン・クルーソーの物語や
古事記の神々の話を読んだ
あのころの孤独が
今もわたしに続いている

表紙の詩

光る海

責めるな
責めるな
決して責めるな
責める心が起きたら
海を見にゆこう
すべてを受け容れ
光り輝く海を

真民は、「詩記」というノートの中で、自分の気に入らない事があったり、自分の思うように事が進まない時に、人を責めるような事を書いたり、逆に、自分のした事や、言った事に対して、自分を責めることも、多く書いています。

しかし、その後で、すぐ、「責めるな、責めるな、口を慎め、人を責めるな」と、自分を戒めています。

真民詩の中には、そういう戒めの詩が数多くあります。

ついつい、自分のことをさておいて、人を責めることがありますが、そういう時には、真民の自分を戒める詩を読んで、反省したり、
この詩にあるように、雄大な海を見て、ゆったりとした気持ちになって、心を落ち着かせることが、大事なのかもしれませんね。

生きてゆく力がなくなる時

臨済宗円覚寺派管長 横田 南嶺 老師（56歳）

今から40年前、受験戦争の中で苦悩と孤独の日々を送っていた青年が出会ったのは、一篇の真民詩でした。その出会いがその後の生き方にどのような影響を与えたのか、また、真民詩がもつ力について、綴っていただきました。

◆十六歳での出会いに導かれて

私が坂村真民先生とご縁ができたのは、昭和五十六年、この『生きてゆく力がなくなる時』という本に出会ったことでした。当時の私は高校二年生でした。ちょうど今から四十年前になります。

今も「死のうと思う日はないが　生きてゆく力がなくなる時がある」という句を口ずさむと心が震えるのであります。

こんな本を出版なさるようなご立派な方でも、「生きゆく力がなくなる時がある」のだと分かったときには、大きな感動を覚えました。そして、人が生きるということは、生きてゆく力がなくなる時を体験しながら、それでも生きてゆくのだということを感じたのでした。

この詩を作られた時、真民先生は四十二歳でした。学校の教員を務めながら、毎朝大乗寺という禅の修行道場に通って参禅修行を始めた頃でした。

坂村真民記念館の西澤孝一館長は『坂村真民　箴言詩集　天を仰いで』の中で、四十代の頃の真民先生を、「『人間として如何に生きるか』を問い続けて生きるために『参禅』を決意し、修行僧と同じような生活を送ります。しかし、家族を養うために教師として働かねばならないというジレンマを抱えて、管理教育が徹底されてた居心地の悪い学校では真民はいつも『孤独』でした。」と書かれています。

◆苦悩の日々に射しこんだ光

私は、真民先生の苦悩には及びもしませんが、幼少の頃から坐禅に親しみ、仏書を読むことを楽しみにしていましたが、高校二年にもなると、受験に向けて皆走ってゆかねばならなくなり、そんな周囲になじめずにいました。「受験戦争」という言葉があり、「偏差値」を気にして過ごす日々に違和感を抱いていました。しかし、そんな自分を理解してくれる者がいないという時でした。そんな時に出会った本が、真民先生の『生きてゆく力がなくなる時』でありました。

真民先生はこの本のあとがきで、「生きてゆく力がなくなるというそういう孤独　そういう絶望　そういう挫折　わたしたちは、そういう深淵に落ち込んだ時、忽焉として、神とか、仏菩薩とかの、大いなるものの存在に目覚めるのであり、それは暗夜に忽焉として、灯火を得たような、喜びであり、救いであり、励ましである。わたしは、その体験から起ち上がった」と書かれています。

近頃、新聞紙上に若者の自殺が増えたという報道がありました。生きてゆく力がなくなる時は、誰にでもあるのです。人は誰しもそんな思いを抱えて、それでも生きているのだということだけでも知って欲しいと思うのであります。

最後にこの詩の全文をご紹介します。

生きてゆく力がなくなるとき

死のうと思う日はないが
生きてゆく力がなくなることがある
そんな時お寺を訪ね
わたしはひとり
仏陀の前に坐ってくる
力わき明日を思う心が
出てくるまで坐ってくる

坂村真民記念館開館9周年記念特別展

『海野阿育と坂村真民の世界展』会期延長のお知らせ

開催期間 **2021年8月29日(日)まで延長** 月曜日休館(祝日の場合は翌日)

入 場 料／一般600円(前売り券500円)、65歳以上・高・大学生500円(400円)、小・中学生400円(300円)
※6月15日からは通常料金

新型コロナウイルス感染拡大への対応として、現在開催中の「海野阿育と坂村真民の世界～版画かれんだあに描かれた真民詩～」展の会期を8月29日(日)まで延長することとしました。このため、海野先生の「講演会」も6月19日に延期して開催します。時間や場所については、記念館のホームページをご覧ください。
なお、6月15日からは、通常企画展として開催しますので、料金も通常の一般400円、高齢者等300円に戻ります。どうぞ、皆様お誘いあわせのうえ、ご来館くださいますようお願いいたします。

展示NO31「帯と愛」

展示NO35「好日」

展示NO37「七字のうた」

展示NO38「遠い日」

展示NO39「大事なこと」

展示NO40「タンポポ魂」

企画展のお知らせ

「かなしみをあたためあってあるいてゆこう
～悲しみ、苦しむ人々と共に歩む坂村真民の生き方～」

開催期間 **2021年9月4日(土)～2022年2月27日(日)** 月曜日休館(祝日の場合は翌日)

「かなしみをあたためあってあるいてゆこう」というのは、自分のかなしみ(悲しみ、哀しみ)を「あたためる」、つまり大切に育み、成長させていくということです。

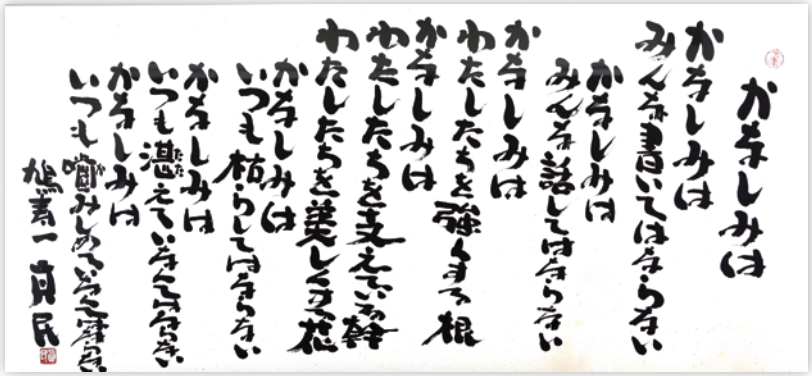
また、自分だけではなく、『かなしみに暮れている人(友、同僚、愛する人等)』の『かなしみ』を自分のかなしみとして感じて、一緒にかなしむ、という意味が含まれています。

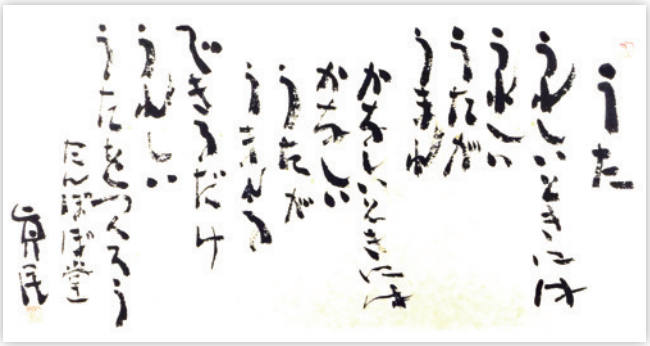
『かなしみに暮れている人』へ、ただ優しい言葉をかけ、慰めるのではなく、「一緒にかなしみ」、手を取り合って一緒に生きてゆくことを願っているのです。この考え方こそ、坂村真民の生き方の根底にある生き方なのです。

今回の企画展は、この「坂村真民の生き方」の根底にある、「かなしみをあたためあってあるいてゆく」という坂村真民の生き方と真民詩の中に見られる「人間の生き方の根底にあるもの」を見つけ、皆さんと共に「これからの時代の生き方」を考える場として構成しました。

また、今回の展示では、真民と交流のあった「北濱普門さんの仏画」を縁のある方から寄贈していただきましたので、「かなしみの中に、心安らげる仏画」と真民詩とのコラボ展としても見ていただけるように展示しています。

どうぞ、真民の「かなしみの詩」と「心安らぐ仏画」をゆっくりと鑑賞していただき、これからの人生においてそれぞれの方が、「かなしみをあたためあってあるいてゆく」生き方を自分なりに考えて、生きていって欲しいと願っております。





経営理念

最大の会社より最良の会社
人さまに喜んで頂く仕事と
自分づくりをする

ホテルクリオコート博多
〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街5-3 Tel 092-472-1111

株式会社 宣翔物産
〒812-0857 福岡市博多区西月隈3-6-17 Tel 092-475-1151

『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り

千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曽木材産業株式会社
〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫
TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 http://www.nagiso.co.jp メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院

To-be
介護付有料老人ホーム トゥービー

介護付有料老人ホーム
To-be
全78居室/20㎡～24㎡(1F&2F)

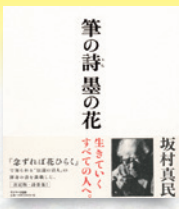
M To-Be
住宅型有料老人ホーム モンレーヴ砥部

住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部
全18居室/40㎡～90㎡(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社

サンマーク出版 坂村真民の本

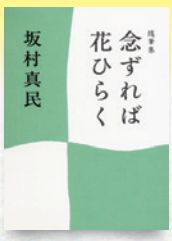
詩墨集 筆の詩墨の花



●定価＝本体 3500円+税

坂村真民記念館所蔵の作品を満載！

随筆集 念ずれば花ひらく



●定価＝本体 1800円+税

初めての随筆集を復刻！

10万部突破の超ロングセラー！

いま届けたい、生き方の道しるべ

詩集 念ずれば花ひらく

詩集 宇宙のまなざし

詩集 二度とない人生だから

詩集●定価＝本体各1000円+税

サンマーク出版
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 2-16-11
TEL 03 (5272) 3166 FAX 03 (5272) 3167
http://www.sunmark.co.jp

致知出版社 坂村真民シリーズ

全424頁、豪華座右版

生涯1万篇以上といわれる
膨大な詩作の中から366の名詩を精選。
長年、真民詩に魅せられ人生を歩む道標としてきた
『致知』編集長が渾身の思いで編纂に当たりました。
心が弱った時、悲しみに直面した時、
ぜひ本書を紐解いていただき、
心の糧となる詩に出逢っていただければと願っています。

坂村真民一日一詩

坂村真民＝著／藤尾秀昭＝編
定価＝本体2,000円＋税
四六判上製

人生で口ずさみたくなる言葉が見つかる

坂村真民一日一言
坂村真民＝著
定価＝本体1,143円＋税
新書判

円覚寺派管長が選んだ真民詩100選

坂村真民詩集百選
坂村真民＝著／横田南嶺＝選
定価＝本体1,300円＋税
新書判

真民氏が自らを励まし、勇気づけるために綴った87篇の詩

坂村真民箴言詩集 天を仰いで
坂村真民＝著／西澤孝一＝編
定価＝本体1,300円＋税
四六判並製

月刊『致知』に掲載された幻のインタビュー集

詩人の颯声を聴く
坂村真民＝著／藤尾秀昭＝聞き手
定価＝本体1,300円＋税
B6変型判上製

致知出版社（ちちしゅっぱんしゃ）
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9
TEL.03-3796-2118 FAX.03-3796-2109
オンラインショップでもご購入できます！ 致知オンライン で 検索

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館を共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 年会費2000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
一般会員 年会費5000円	特典	会員証で入館無料1人 ほか
特別会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人 ほか
法人会員 年会費10,000円	特典	会員証で入館無料2人、観覧券10枚贈呈 ほか

詳しくはホームページをご覧下さい 坂村真民記念館　友の会 検索

〈編集後記〉
真民詩には「風と光」を詠んだものが数多くあり、自身も木々や鳥達に教えられて「光と風の中を歩いてきた」と言っています。まさに今、風薫り光華やく季節。この大変な状況下にあっても、緑の風に染まり光を浴びて、明るい心を持ちたいものです。（真美子）

タンポポだより vol.37 夏号
令和3年6月1日発行
発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705　坂村真民記念館内
TEL089-969-3643　FAX089-969-3644

［坂村真民記念館］
開館時間／9～17時（入館は16時30分まで）
休館日／月曜（月曜が祝日の場合は翌日）、12月29日～1月1日
入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、小・中学生200円　※15人以上の団体は割引あり